

金融機関のKYCと秘密鍵管理を両立する ノンカストディアルウォレット技術

— 安全なデジタル資産活用の社会インフラ —

goenが提供する技術は、金融機関等による本人確認 (KYC) と、利用者自身による秘密鍵管理を両立し、さらに取引前に相手側を確認できる仕組みを実現。安全性・透明性・利便性を高い次元で提供します。



KYC・安全性・利便性のトレードオフを解消

金融機関等による
本人確認 (KYC)



法令に基づく本人確認を実施



利用者自身による
秘密鍵管理



秘密鍵は利用者が自己管理
(ノンカストディアル)



取引前の
相手側確認 (相互KYC)



送付前・受取側の双方を確認し、
リスクの高い取引を低減



KYC対応
ノンカストディアル
ウォレット



安全性・自由性・利便性を
高次元で両立

! 解決する課題

- 金融機関によるKYCと秘密鍵の自己管理の両立が難しい
- ノンカストディアルウォレットはKYCが必須でないため、取引相手の確認が出来ない
- 詐欺、マネーロンダリング、不正アクセス等のリスクが残る

主な活用領域



ステーブルコインの
管理・流通



企業間決済・
資金移動



証券・トークンの
管理



NFT・
デジタル
コンテンツ



Web3サービス・
DeFi

— デジタル資産の未来を支える、信頼の基盤 —



安全性の向上

多層的な確認により
不正・詐欺リスクを低減



利用者の自由

秘密鍵はユーザー自身が
管理・運用



取引の透明性

相互KYCで信頼性を
確保



コンプライアンス対応

金融機関の基準・規制に
準拠しやすい設計



社会インフラへ

Web3時代の安全な
デジタル経済を実現

詳細は裏面をご覧ください ➤

KYC対応ノンカストディアルウォレット技術の詳細

— 仕組み・活用領域・提供価値を整理 —

1 なぜ必要か（背景）

デジタル資産の普及が進む一方で、本人確認（KYC）と秘密鍵の自己管理を両立することは容易ではありません。金融機関の信頼性、利用者の自律性、取引時の安全性を同時に満たす仕組みが求められています。

- ✓ 金融機関のKYCと自己管理型Walletの接続が難しい
- ✓ 取引前に相手側を確認できない場合がある
- ✓ 詐欺・不正送金・マネーロンダリング等のリスクが残る

2 技術の基本構造



金融機関等による本人確認の信頼を活用しながら、秘密鍵は利用者自身が保持する構成です。

3 4つの特長

A 自己管理



秘密鍵は利用者が保持し、第三者に預けません。

B 相互確認



送付側・受取側の双方を確認し、リスクの高い取引を低減します。

C 安全性



確認できない相手との取引を制御しやすい設計です。

D 拡張性



ステーブルコインをはじめ、各種デジタル資産への応用を想定しています。

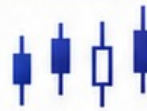
4 主な活用領域



ステーブルコインの
管理・流通



企業間決済・
資金移動



証券・トークンの
管理



NFT・
デジタルコンテンツ



Web3サービス・
DeFi

金融機関、事業者、利用者をつなぐ次世代のデジタル資産基盤として活用が期待されます。

5 関係者ごとの提供価値



金融機関・事業者

- ✓ 法令遵守（KYC）の徹底
- ✓ 顧客基盤を強化した新運用
- ✓ 新たなデジタル資産サービスの展開



利用者（個人・法人）

- ✓ 秘密鍵を自己管理できる安心感
- ✓ 金融機関のKYCによる信頼性
- ✓ 安心・便利にデジタル資産を利用



取引相手

- ✓ 事前に相手のKYCを確認可能
- ✓ 詐欺や不正取引のリスクを低減
- ✓ 安心して取引が出来る



社会・エコシステム

- ✓ 安全なデジタル資産の普及促進
- ✓ 金融イノベーションの健全な発展
- ✓ Web3社会の信頼基盤に寄与

6 今後の展望

本技術はPCT出願済みであり、日本のみならず、グローバルでの展開を視野に入れています。

goen合同会社は、本技術を核インフラとして育て、金融機関・事業者・パートナーの皆様とともに、次世代の安全なデジタル経済圏の実現を目指します。



協業・共同検証を
ご希望の方は、

goenまでお問い合わせください。



お問い合わせ info@goen.io